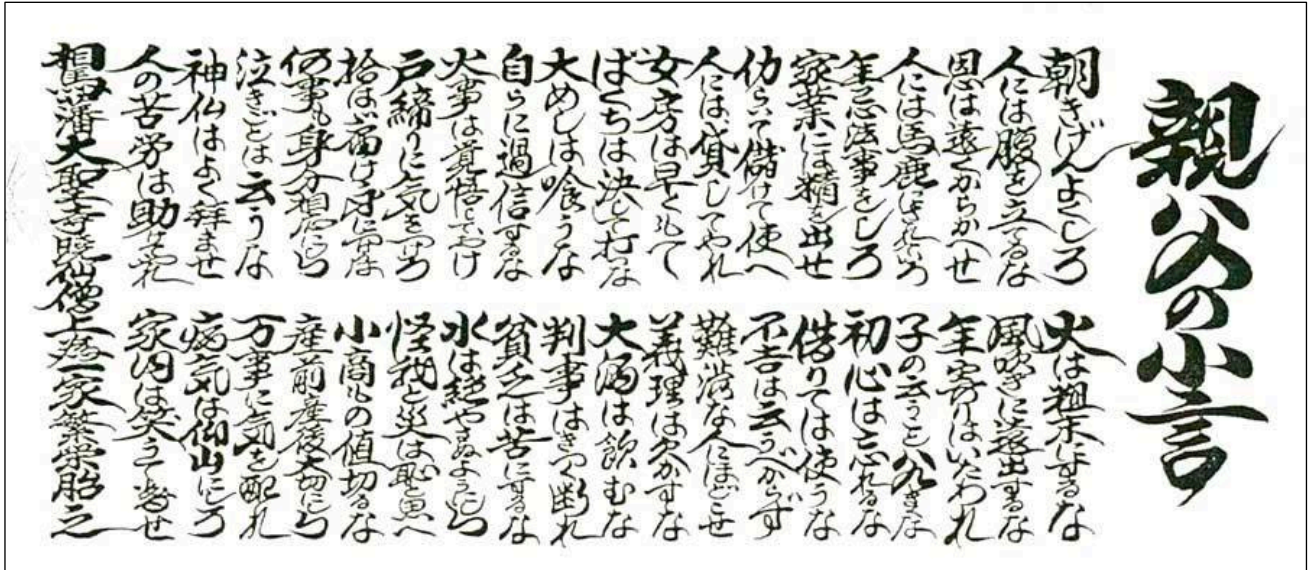




みちくさ

2016. 1. 8 No. 17



飲食店等に行くと、「親父の小言」と書かれたものが壁に貼られているのを、誰でも一度は目にしたことがあると思います。「朝機嫌よくしろ、火は粗末にするな……」と続く上のもので、このルーツというか出所については諸説あるようですが、実は福島県浪江町にある大聖寺の和尚さんが、昭和初期にまとめたものだというのが有力なようです。改めてじっくり読んでみると、なるほど今の時代にも十分に響く内容であると感じます。

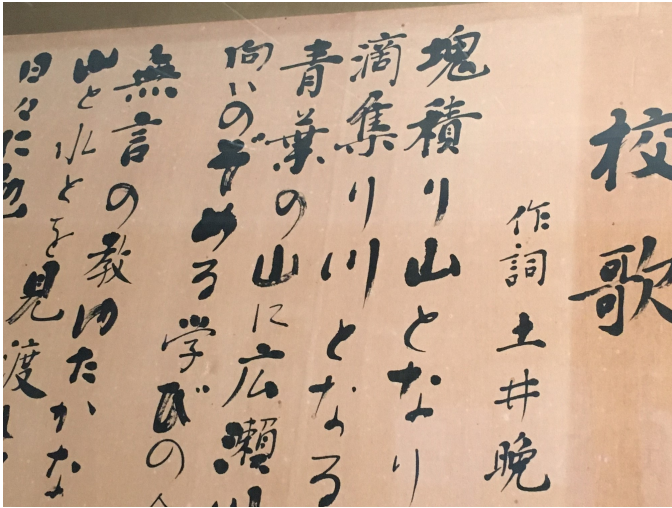
ところで、実は私も子どもの頃、親父からよく小言のように言われていたことがありました。それは「敷居を踏んではいけない」「扉は後ろ手に閉めてはいけない」「食事は腹八分目にしろ」…です。当時は繰り返し言われるのでうるさいなあと反発を覚えたものですが、自分も子育ての時に同じことを言っていたことに気づいて、思わずおかしくなっていました。

「しつけ」という漢字は身を美しくと書きます。元々は礼儀作法に限定する武家礼式の用語として生まれたようで、中国から伝わった漢字の中にはないので、国字として作られたものだと分かります。漢字のつくりが示している通り、礼儀作法や規範意識を習得させるという意味になります。裁縫で出てくる「仕付け」という用語も、真っ直ぐ縫えるように予め目安となる縫い付けをしておくことであり、これも「しつけ」に通じるところがありますね。

ところで親父の皆さん、しっかり小言を言っておりますか？最近の親父は、昔に比べてスマートな生き方をしている人が多くなったのか、特に若いお父さんたちは、あまり小言を言わなくなっているかも知れません。でも母親とは違い、父親だから響く小言というのも、私はあるのかなと思っております。どうぞ、時々小言を言って、親父の存在感を高めていきましょう。自分の



思いを子どもたちにしっかり伝えていくのは大事です。ただ……お酒が入ったの小言だけはやめましょうね。家族からきつとうるさいと言われます。



校歌の書

校長室に書で書かれた校歌の額が飾られております。西日のあたる壁に飾っているため、少し煤けていて気になっておりましたが、このたび、同窓会から費用を援助してもらい、額装をすることができましたので、ご報告いたします。

ところで、この書については、翠柳書と記してあるだけで、誰が書いたものか分からなかったのですが、落款をもとに調べていったところ、

加藤翠柳（すいりゅう）という書道家のものであることが判明いたしました。この人は大崎地方の生まれで、戦後の書道界を牽引し、宮城野書人会というものを立ち上げた人であることがわかりました。なぜこの人の書が残っているのか、その経緯は全く分かりませんが、おそらく学校から依頼されて書いていただいたものかと想像しています。書道のことは詳しくないのですが、素人目から見ても、さらさらと柔らかい書体で書かれていて、五番まである詩も釣り合いよく収められているなどと思います。どうぞご興味のある方は、校長室までお立ち寄りいただき、ご覧ください。この書の他にも、麟経堂の開設者である岡千仞の書、赤痢菌を発見した志賀潔の書なども飾ってあります。

一年の計は元旦にあり

新年を迎えるとよく聞くこの諺ですが、休み明けの朝会でこの話をしました。「物事を始めるには、きちんと計画を立てて準備していくことが大事です」ということです。

この諺は、元々中国の「月令広義」の中の「四計（四つのはかりごと）」から来ています。日本に伝わった後、少し表現が変わっていますが、次のようなものです。

- ・一日の計は朝にあり
- ・一年の計は元旦にあり
- ・十年の計は樹を植えるにあり
- ・百年の計は子を教えるにあり

十年先を見越して樹を植えて地域が富めるようにし、百年先を見越して、子どもたちを教育し、国を発展させていかなければならない…ということになるのでしょうか。

いずれにしても、日々努力をしないと、夢は叶うものではないということを朝会では付け加えました。校歌の

三番にも土井晩翠が「一日（ひとひ）も夢と過ごすまじ」と記しています。

さて、2016年の幕開け。去年は国内外でいろんなことがありました。今年はよい年になればと思います。子どもたちはどんな目標を立てたのでしょうか。楽しみです。